

# 星屑

No. 114



熊本県民天文台 '83. 12月

## ペルセウス座

宮本 幸男

夜7時ジャスト、天文台に着くと建物の窓から丁の光が淡く洩れていた。M君かな？ N君かな、それともK君かな、と思いつつシルエットの列物を背にして東北の中空いっぱい懸った“ペルセウス座”を眺めていたが、ブルッと身震いをした。実は小用が済んだのである。ふと、故くなられた津留繁夫先生を思い出す。先生もこんな風景は好んで居られた。

秋晴れの星のあとなので、カシオペヤからペルセウスへと流れている天の川も鮮かで、<sup>エイカイ</sup>h<sup>\*</sup>二重星団も砂金でもまいたようである。光が来るのに7500年かかると言うが、これを神話の王子が振り上げた長剣のつばと見たてた古代人の想像力には驚く他はない。

王子の横腹に青く輝くアルゲニブ(アルファ星)の近くにも細かい星が群がってチラチラ光っているのが今夜は特によく見える。そこから七つ、八つの星がとびとびに続いて描いているカーブは格別である。これは跳躍する王子の左足の線にあたるが、左から右下へとなだらかに引き下すので、美の法則でも最美と言われる魚線である。それで躰は強いられなくても快く夫れを伝て行く。

画家が青の三ヶ月を、つい有明月に撞いてしまうのも美の法則を証明しているのかも知れない。次に、蛇髮の女怪メドウサの頭に位置するベーター星アルゴル変光星がある。アルゴルは、もとアラビア語のアルグールで、死人の肉を喰う悪魔のことである。今でも牧畜を営むベドウィンの間では、人が亡くなると五日間その墓番をする習わしだが、怖いのはハイエナ等ではなく、グールが死肉を喰いに現われるかも知れないことだと言われている。ゾーッと寒けがするような話だが彼らが砂漠の生活でこの星の変光に気づき、その畏怖からこんな名をつけたい。更に古く此所にメドウサの首が描かれたのも何かの因縁であろう。このようにアルゴルの変光は古くから知られていたが、いつの時代だったかは判然としない。記録に残っているのは、イタリアの天文学者モンタナリが1667年頃この星が変光することを書き残している。1781年にはイギリスのグッドリックという16才のアマチュアが変光の理由を「日食」と同じものと推定した。そして彼の解釈が確認されたのは一世紀も後であった。現今では周期2日20時間49分で2.2等～3.5等に明るさをかえる食変光星としてアルゴル型の代表となっている。

11月14日21時09分にアルゴルは極小となった。その右方にある3等星と見比べると、明るさが殆んど変りがない。15分程今の光でいて5時間半の後は、王子の胸に輝くアルファ星と同じ2等の光りに戻る。そして5.9時間、この光りでいてから急に暗くなり始めて、4時間後にまた今の光りまで落ちる。12日の夜天文台(米本少年科学教室の児童諸君に)

うに存心を出しておいたが、果たして結果や如何に？

ついニアルゴルの近くに、すこしまばらな散開星がある。アルゴルとアンドロメダガンマ星を結んで、稍アルゴル寄りを探せば、目の良い人なら、眼でも何となく淡い光のしみを見出させるであろう。このM34は40倍程度で見ると視野いっぱいにばらまかれた星の中に等光の重星が幾つも見えて楽しみである。

更に記憶に残るのは、1974年11月9日、アルゴルの北6度に新星が発見され11等であった。筆者もライトシュミットカメラを自作して間もない頃で、早速自宅の庭からトライXに露出5分間で撮ってみたのである。ところが折角撮影した写真の中の、どの星が目的の新星なのか？なかなか同定出来ずに困惑したことを思い出す。それはこの新星の位置と僅かに10秒程離れて9等の恒星がもとから存在していたからである。300ミリ以下の望遠で撮った方々は、この恒星を新星だと感違いされた方も多いと聞いている。トライXの場合300ミリでの分解能は13秒であり、自作のライトシュミットは焦点距離545ミリなので分解能は8秒であった。それで私の写真には9等の恒星のすぐ隣りにチョココンと11等の新星が明瞭に写っていた。この同定には日田市の桑野善之氏から、ヘーレンベルグ写真星図の大判のコピーを送って頂いたりアドバイスも下さったのである。筆者所有の普及版のフェーレンベルグ写真星図では、どうしても確信が持てなかったのであるが、桑野氏の御陰で新星の同定は納得出来、その上自作ライトシュミットの分解能にも自信が持てたのである。アマチュアの暖い友情にはいつも感謝の気持ちで一杯である。

それにしてもこの新星の写真は我が家の庭からであった。9年前のこととは言え15等の星まで写っている。現在ならどうであろう、熊本空も悪くなったなあ！

でも私達には天文台がある。12月4日、日曜日、例によって夜7時ジャストに天文台に着くと満天の星月夜(星の光があたかも月のように地上を照らす夜のことで月が出ている訳ではない)であった。福岡から1時間半でとんで帰ったというJ氏は夕食前だというのに彗星の観測に無中です、部屋の中では熱心な会員達の賑やかな話し声にまじって良い香りが漂う。私もそのCOFFEEを一杯いただいてこの稿を終ることにしよう。

係刊 宮本先生のバルセウス座の図は都合によりスペースに  
移しました。スペースの都合上、ことゝまか、この新図にはお不足  
の図はございません。ごめんなさい。

## 11月の観測会の報告書

中田季予子

みなさん、御存知の通り、昭和58年11月2日・日と熊本県民天文台にて観測会がありました。

南熊本のくらしのセンターに友人3人を引きつれて行きますと、すでに、宮本先生をはじめ、天文台の方々が集っておいででした。買い出しに行った永井先生方を待つ間、しばしの雑談。女の方が他にも来ていらっしやうたので少々安心。久しぶりにAさんとも会えました。

さて、くらしのセンターを無事に出発し、途中、事故にありこともなく、天文台へ着きました。よく晴れた空には、夏と秋の星座たち。しばらく感動しておりました。が、しかし現実はずい。天文台の部屋の中は、一見、片づいているかに見えた。ただ、一体何に使用されているか分からないふきん、信用できない洗いおけの中の茶わん、スプーン、おはし。さっそく友人のIさん2人、おかたづけ。悪い友人の見本の私は、「リング星雲が、望遠鏡に入ってますよ！」という声に外へ。結局、定員オーバーで、上に登れず、見ることはできませんでした。

そこで、小さな望遠鏡を1つ出そうと言うことになりまして、私もお手伝い。ただし、赤道儀式の望遠鏡をまともに使えない私は、アカリモチ、アンドロメダ座の大星雲が入った時だけしっかり見せていただきました。実は、天体望遠鏡でアンドロメダを見たのは、これが初めて。アホと言われようと、どうせ私は“すばる”と“オリオン座の星雲”しか、まともに入れられません。（注・お月様と明るいお星様は、ちゃんと入れることができます！）

再び部屋の中へ入ると、Iさんは、まだおかたづけ。手伝うことはなさそうなので、Mさんと上へ行きました。割とたくさん、人が残っていました。（まあ、半分は天文台のメンバーでしょうが）ちょうど、球状星団が、入っていましたので、見せていただきました。青白い星が集まっている星団。とても美しく見えました。11月ですね。正直言って、少し寒かった。

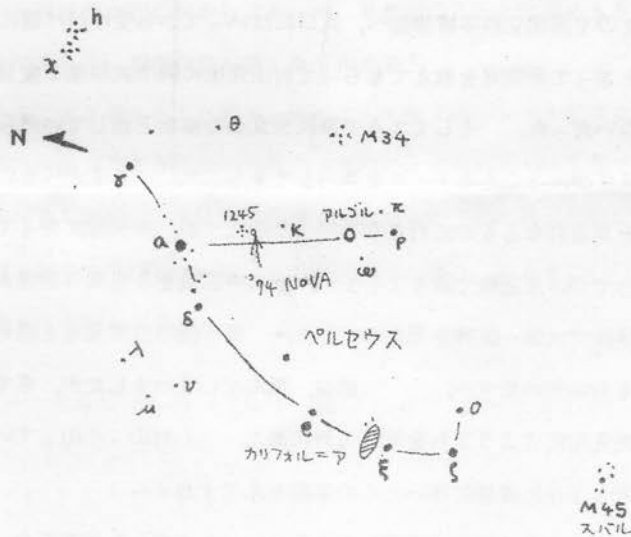
そうこうするうちに、洗いものの済んだ2人が登ってきました。一般の人達は、帰ってしまったらしく、上にいるのは、ほとんど天文台のメンバー。天の川がうっすらと見えているね。あ//流れた//などという会話があたり、あの大きな望遠鏡を、ぐるんぐるん回して遊んで(?)いたり、皆さん、お楽しみでした。

「さて、それでは、“星空の散歩”をしましょうかね」という永井先生の声に、空を見上げます。天頂近くにあるベガス座から出発して、アンドロメダ座にペルセウス座、くじら座は、ちょっと見えません。すばるは見えます。夏の星座7名残りを惜しんで、白鳥座、わし座、こと座、ベガとアルタイルの間には、わりと輝く星が。アルタイルの近くにある2等星と3等星には、イ

ヌの神話があります。なまけ者の兄と、真面目な弟の話でした。その後、宮本先生にボタン・タッチされ、ペルセウス座にまつわる神話が始まります。（ここいへんから、首が痛くなっています。）ペルセウスの生いたちから、成長してのメデューサたいじ。メデューサの血をあびた岩から飛び立ったペガサス。（ペガサスは、ポセイドンとメデューサの子供だった!!）アンドロメダ姫を救い、結婚したペルセウス、石になった化けクジラのティアマット。と、話している間にも流れ星1つ。ゆっくりと、ずーっと、すばるの近くを流れました。高2の時、ペルセの流星群を見て以来、はつきりと見た流れ星。やったね！

話が終りまして、下へ行くと、今度はおでんの材料が待っていました。おさんどん役の人々、がんばってください。とすっかりまかせてしまいます。くったらくったら煮てゆきますと、中味はふやけてあふれんばかり。あわてて小なべに移しまして、さて、そろそろ食べごろですか？という時で話はおしまい。この後、どうなったのかは知りませんので、あしからず。

追記：観測会にもめったに参加しない私が、このようなものを書きまして、大変恐縮しております。ただ今 花の☆才ではありますが、文体 その他に関しましては、全く小学生以下でございますゆえ、何とぞ おゆるし下さい。



ペルセウス座の図



今年春に彗星会議で東京へ行ってきて、アー・イ・エー、いなど思いつく、その翌に京都の彗星夏の学校にもノコノコと出ていったのは、星屑です。じと思ひます。東京に行きたい都会が恋しいと思っていたところに土木学会の全国大会が、9月28～30日に金沢八景であるので、先生が、「東京までの半額の電車賃を出したから行かんか？」といったお呼びがかかったので即、「YES」と答えると先生一言「遊びに行くんと違うぞ」とチクリ、かくして東京に行くことになりました。

そこで東京での宿を捜すことになり県民天文台の松尾夫妻宅に行こうと思いきや面識がないものでやめました。（こうして星屑に書いておくと次回の東京に行った時に泊めてもらえると思って書きました。ヨロシク）さて、次に泊まれる所といえば、もと大分大学天文部の部長だった石井君のいる寮です。彼とは、九州流星ネットワークの時に知り合った人なのでした。流星ネットワークの成果は、各地の天文家と知り合いになれたことでした。色々な町に女がいるのもいいが、友もいるのもいい。（いや女かな？）

さて東京第1日目、学会に行こうと東京駅にいったものの東海道線に乗らずに山手線に乗り上野駅へパンダを見るかと思いきや熊本には、ガンモがいるので上野公園を1人くねくねとしたが、夜でなかったので即国立科学博物館へ、入口にはいってから受け付け嬢に「村山先生に会いたいのですけど」と言って研究室を教えてもらって村山先生に開所式以来2度目のいやアマ天があるので3度目の出会いだった。そして2人で県民天文台の事など話していたら小山さんも部屋に入ってきて、60cm反赤のあるドームを案内してもらった。さすがに60cmは大きかった。その数日後の星を見る会なるものに行こうと思ったのですが、中央線に乗っていた時後楽園にライトがついていたのでつい水道橋で降りてしまい、巨人一広島を3塁側外野席から見たのでした。その2日前は、横浜で大洋一阪神を見たのでした。甲子園以外で見ると阪神は、弱かった。来季こそ優勝してもらいたいなァー。話が、飛んでしまいましたが、さて博物館内も十分見たので村山・小山両先生にさようならを言って外に出た。（村山・小山っていうと阪神の名ピッチャーで、阪神を昭和37年に優勝に導いた人の名前なんですねェー）

それから神田の古本屋などを歩いてから、いつもながらお世話になっている石井君の寮へ帰っていきなりました。

☆☆☆ TO BE CONTINUED ☆☆☆

秋の東京くねくね Part 1 に対しての感想は、メールでもお寄せください。お待ちしております。

## 自己紹介

古川 英生

今回自己紹介させてもらうことになりました古川英生です。現在、熊本大学法学部法律学科1回生で、熊大天文研究会に所属しています。天文歴はほぼないに等しいです。しいて言えば熊大天研に入って現在までの半年ですが、何もせずに過ぎてしまいました。生年月日は昭和39年7月1日です。長崎県は対馬の生まれで、育ったのは佐賀県唐津市です。

小さな頃から天文に興味はあったのはあったのですが、本できれいな星雲や木星や土星などを見て、感心していたくらいで、中学時代はバスケット一色で、高校時代は河合奈保子一色でした。(現在もほとんど病気で)そして大学に入ってどのクラブに入ろうかと探しているとき熊大天研のポスターが目に入ってしまったのです。そして何となく説明会に行き何となく入ってしまいました。その後現在までの半年間なにもせずに来たのは何故かという、「面倒臭い」の一言に尽きます。私はかなり面倒臭がりやで、本を読んで勉強するのは面倒臭い、星を見るのがよかろうと思ったのですが、自転車で天文台まで行くのはもっと面倒臭い。なんともおぼろげな話ですが、10月17日に原付免許も交付されますし、バイクでも買えばなんとかなるのではと思っています。短かいながらこれで自己紹介を終わらせていただきますが、なにとぞよろしくお願ひ致します。

## 天文台への電話のかけ方

天文台より

天文台にご用がある方も多と思います。なかには、もう二三度かけられた方もあるかと思えます。そこで今回は電話のかけ方について連絡いたしましょう。

電話をかけると留守番電話となっているために、向こうから名前 用件 電話番号をおっしゃっていただくように指示されるはずですが、そしてその後、ピーという音が鳴ったら、ゆっくりと、名前、用件、電話番号の順におっしゃって下さい。時々、そのまま切られてしまう方があるようですが、折角便利なものがあるので大いに利用して下さい。尚、電話番号は次の通りです。

096428 - 6060

## 連絡板

### ☆12月の定例観測会について

12月24日(土) PM7:00より 於天文台

テーマは「天体写真撮影の復習とガイド撮影の実習」で講師は下郡慎太郎さんです。

尚、現地集合となります。

### ☆新年会について

1月5日(木) PM1:30より 於みゆき会館

会費:600円(ケーキ+飲物)

申込みは、12月24日夜までに事務局まで。

## ☆ 編集後記 ☆

ぐおー、大変な仕事でした。この号が届くころにはクリスマスが目前に迫っているでしょう。冬になるとあったかーいマフラーが恋しくなりますね。まァ、こたつばかりにもぐりこんでないでちょっと外へ出て星でもながめてみては? とにかく2度目となり少しは楽だろうなァと思いきや甘い甘い! 困ったものです。クリスマスまでに間に合わなかったら大変だ!! ここで非常に恐縮ではありますが自己紹介をさせていただきます。ペンネーム「くるみ」こと本名木下 賢。熊大教育学部小学科1回生であります。文章はこのとおり文裂症にかかっておりますので、展開についていけない方が多いのでは? と思っております。まあこのような頼りない編集委員ではありますが、よろしくおねがいします。尚、いろいろと文句、意見のある方は天文台内の星屑編集局まで。どんな批判でも聞くつもりです。みんなで星屑を良いものにしましょう。それではみなさん、風邪などひかないように、よいお年を!

くるみ